

【主催者挨拶】

NPO法人文化ボランティアとびうめの会

代表理事

田中 正治

皆さん、おはようございます。

今日のテーマは「新しいボランティア像を追う」としてありますが、一体、何が新しいのかと言う議論があるかと思います。皆さんご存知のスーパーボランティア尾畠さんは、「私はボランティア」と、ボランティアを前面に出して活動されておられます。

今日、取り上げるテーマは、自分たちの住んでいる地域において、“やむにやまれぬ気持”から“どうにかしなければ”、と言うことで始められた活動を取り上げます。

長く続けられている事例がほとんどですが、その内に地域住民の皆さんの協力や支持を得るほどに認められている事例であります。しかも、この方達は何も見返りを求めていない、報酬を得られているわけではありません。全て自分の意志でしかも社会の役に立っているという、そういった事例に今日はスポットを当ててみたいと思います。

今年は元号が令和と改まりました。令和の拠り所となった万葉集は実はここ「太宰府」で詠まれたものであります。

毎年、フォーラムを企画するにあたり、今年は何をテーマにしようかと非常に悩むわけです。

今回は、年号“令和”が太宰府と関わっていると聞いた段階で、この場所を決めました。

具体的に決めた理由は3つあります。

一つ目は、2009年・一回目のボランティアフォーラムをこの会場でやっております。

この九州国立博物館ミュージアムホールは、記念の場所です。

二つ目は、九博のボランティアをご存知ですね。今日も関係者の方が沢山おいでいただいていると思いますが、毎年300名を超える方々が文化ボランティアとして活躍されております。

県下でもここは、文化ボランティアの拠点として立派な活動をされており、文化ボランティアフォーラムを開催するに最もふさわしい場所だと思います。

三つ目の理由としまして、今日は後ほど講演を頂きますが、お二人の講師をお呼びしております。

お二人は九州国立博物館の立ち上げに、また九州国立博物館ボランティアの立ち上げに非常に貢献された方がたです。

本日は、誠に奇遇なチャンスをいただき、フォーラムを開催させていただきます。

それでは講師をご紹介させていただきます。

「大久保邦子さん」・・・大久保さんは文化ボランティア・コーディネーターとして日本の草分け的な存在の方です。現在もボランティアをしながらご自分の体験を基に講演や記述を続けておられます、今日はその中からお話し頂けると思っています。

もう一方は「糸井茂さん」・・・糸井さんは九州国立博物館の設立時の諸々の業務を始め、九州国立博物館ボランティアの立ち上げまで全てご指導いただいた方です。いろんな裏話が聞けるのでは、と楽しみにしております。

そして令和に関する報告ですが、非常に忙しくなった大宰府万葉会の皆さまをお呼びしています。

令和に関する奥深い話も聞けるのではないかと思います。

今日は盛り沢山でございますが、どうぞ最後までよろしくお願い致します。